



マグニフィセント7

令和6年10月10日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

先端技術基準は、これら基準において企業経営を行うことで、マグニフィセント7と対等な企業構築を実現できる。

これらは企業経営基準の転換がこれらを可能とするのである。これらはソフト資産の飛躍であり、同一の企業経営基準と経営チームにおける理解はこれら現実への到達を必ず可能とできるのである。

これらは現実への理解が早急に求められ、明確に企業経営の指針の提示し、これら現実への参加と自己企業の刷新を要求されるのである。

これらは、決して夢でないことを理解しなくてはならない。彼らの現実は真実であり、それらが新しい世界を行っているのである。

これらは彼らの基準における企業経営はその規模を問わず、それら先端性において唯一現実における企業経営の安定性を与えると考えなくてはならない。

これらは未来に落伍することは既存基準と現実における自己であり、これら新しいグローバルスタンダードにおける市場参加を必ず要求されると理解しなく絵はいけないのである。

これらは企業経営における進歩性の確立とその要求であり、これらは企業経営における新しいコンセンサスと経営基準、技術への深耕された理解を求めることで、これら世界の先端基準における企業経営の確立が実現できるのである。

これらは新しい企業経営における現実と必要性であるという認識は必ず正しいのである。彼らが牽引するビジネスと経済は、これらより優れた基準を全ての企業が追うものであり、これらは決して既存性や劣等性ではないのである。

他方においては、これら基準における企業経営は経営者の理解と能力において実現できることは正しいのである。